（別記）

令和８年度伊達市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

伊達市は、冬は暖かく、夏は過ごし易い温暖な気候であり、その安定した気候を生かし、野菜・酪農・米麦・雑穀といった多種多様な農畜産物を生産する混合経営地帯となっている（野菜協議会 9 部会・作付品目 80 種以上）。また、冬野菜のブランド化を図り施設利用栽培も進めており、通年を通して各種野菜の作付が行われている。水田活用でも全体の 2 割程が転作（野菜・畑作が主）で、主食用米の需要が減少する中で、備蓄米等の対応と、より一層「野菜・畑作」を中心に転換を促進することで水田面積の維持を図っていく必要がある。

そのような中で、近年多発する病害虫による品質及び収量の低下が懸念されていることや、農家の高齢化が進むとともに、農家戸数の減少が見られ不作付地の改善など課題も有る。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農業者の所得向上地域における水田農業の発展等を図るため、適地適作の推進として地域の実情（気候や圃場条件等）に応じた作物選択を行うとともに、収益性の向上と生産コストの低減及び新たな技術の導入を図る。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域におけるブロックローテーション体系の構築に向けては、高収益作物と畑作物の輪作体系に水稲を追加し、水田の活用を促進させる。また、水田の利用状況を精査し、有効的な土地利用を行うための畑地化に取り組む。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

地場販売で高評のななつぼしは学校給食提供やオリジナルブランド化を実施。また、ゆめぴりか等を中心に、安心・安全な米作りと消費者に求められる良食味米（低タンパク米）主産地としての地位を確保したい。

（２）備蓄米

ホクレンとの調整を主として、主食用米の需要の減少に対応していく。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

現状、作付け予定はない。

イ　米粉用米

現状、作付予定はない。

ウ　新市場開拓用米

現状、作付予定はない。

エ　WCS 用稲

現状、作付予定はない。

オ　加工用米

現状、作付予定はない。

（４）麦、大豆、飼料作物

麦に関しては関係機関と連携し、需要に応じた麦作りを推進し、生産性向上を図る。飼料作物においては牧草・デントコーン等の自給率を向上させる為に、転作田や休耕田など水田活用を進め作付維持・拡大を図りたい。

（５）そば、なたね

現状、作付予定はない。

（６）地力増進作物

地域の実情から地力増進作物（ソイルセイバー等）の需要が高いため、水田転作や畑作物における地力増進の推進を図る。

（７）高収益作物

ブロッコリー・キャベツ・トマト・ホウレン草・スイートコーン・カボチャ

地域振興作物であるブロッコリー・キャベツ・スイートコーン・カボチャにおける生食用、加工用の推進と契約栽培等が盛んな南瓜に対し、加工用の生産及び生食用の収量の確保及び品質の向上を目指すために排水対策を取組むことで安定化を図る。

地域の振興作物であるトマト栽培において、近年多発するアザミウマ類等の害虫対策として防除の徹底を行い収量及び品質の向上を図る。また、６月から７月にかけての気象条件（降雨・濃霧）により、灰色かび病が近年多発していることから、灰色かび病対策として防除の徹底を行い、収量及び品質の向上を図る。

伊達市の温暖な気候を活かし、冬野菜ハウスの需要拡大とブランド化に向けた地域の振興作物であるホウレン草などの収量及び品質の向上を図る。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　**８　産地交付金の活用方法の明細**

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５　作物ごとの作付予定面積等

（単位：ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	142.4		139		130	
備蓄米	0		40.8		10	
飼料用米	0		0		0	
米粉用米	0		0		0	
新市場開拓用米	0		0		0	
WCS用稲	0		0		0	
加工用米	36		0		35	
麦	0		0.5		2	
大豆	0		0		0	
飼料作物	0.3		0.3		1	
・子実用とうもろこし	0		0		0	
そば	0		0		0	
なたね	0		0		0	
地力増進作物	0		0		3	
高収益作物	9.1		10		7	
・野菜	9.1		10		7	
・花き・花木	0		0		0	
・果樹	0		0		0	
・その他の高収益作物	0		0		0	
その他	0		0		0	
・〇〇	0		0		0	
畑地化	2.1		1.5		25	

※　畑地化の面積については、前年度作付面積等は内数、当年度及び令和８年度作付予定面積等は外数で計上しており、記載方法が異なっています。

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	キャベツ・ブロッコリー ホウレンソウ・トマト	地域振興作物栽培	作付面積	（7年度）501ａ	（8年度）800a
2	スィートコーン・カボチャ	被覆資材利用栽培	作付面積	（7年度）403ａ	（8年度）400a
			早期出荷栽培面積	（7年度）403ａ	（8年度）400a
3	ホウレンソウ･トマト	収量・品質向上栽培①	作付面積	（7年度）40ａ	（8年度）80a
			収量（反収・GAP）	（7年度） ﾄﾏﾄ　8,129kg/10ａ ﾎｳﾚﾝｿｳ　733kg/10ａ 0ａ（0%）	（8年度） ﾄﾏﾄ　7,800kg/10a ﾎｳﾚﾝｿｳ1,350kg/10a 16a(20%)
4	キャベツ･ブロッコリー	収量・品質向上栽培②	作付面積	（7年産）461ａ	（8年度）720a
			収量（反収・GAP）	（7年産） ｷｬﾍﾞﾂ 4,161kg/10ａ ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ 643kg/10ａ 0ａ（0%）	（8年度） ｷｬﾍﾞﾂ　5,800kg/10a ﾌﾞﾛｯｺﾘｰ1,200kg/10a 144a(20%)
5	スィートコーン･カボチャ	収量・品質向上栽培③	作付面積	（7年産）403ａ	（8年度）400a
			収量（反収・GAP）	（7年産） ｽｲｰﾄｺｰﾝ1,435kg/10ａ ｶﾎﾞﾁｬ　1,512kg/10ａ 0ａ（0%）	（8年度） ｽｲｰﾄｺｰﾝ1,900kg/10a ｶﾎﾞﾁｬ　1,700kg/10a 60a(20%)

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：北海道

協議会名：伊達市地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	地域振興作物栽培	1	42,000	ブロッコリー・キャベツ・トマト・ホウレンソウ	販売目的として栽培
2	被覆資材利用栽培	1	34,800	スィートコーン・カボチャ	被覆資材を利用した栽培
3	収量・品質向上栽培①	1	9,000	トマト・ホウレンソウ	施設栽培、指定農薬の使用、自動換気システムの導入等
4	収量・品質向上栽培②	1	9,000	ブロッコリー・キャベツ	被覆資材を利用した栽培、心土破砕
5	収量・品質向上栽培③	1	9,000	スィートコーン・カボチャ	心土破砕、堆肥施用等

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

伊達市地域農業再生協議会作物リスト

飼料作物
イタリアンライグラス
オーチャードグラス
ギニアグラス
シバ
スムーズブロムグラス
チモシー
トールフェスク
ハイブリッドライグラス
バヒアグラス
フェストロリウム
ペレニアルライグラス
エンバク
メドウフェスク
ローズグラス
アカクローバ
アルファルファ
シロクローバ
ソルガム
飼料用トウモロコシ